

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人元気の里とかち		
事業所名	グループホーム元気の里(おとふけ)		
所在地	北海道河東郡音更町宝来仲町南1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、町内でも最古のグループホームであると同時に、利用料も町内でもっとも低価格であるという観点からも利用しやすいと思われる。
また、建物自体は古く狭いが、かつて喫茶店だった面影も残している為、それなりの温かみや温もりを感じることができ、家庭的な雰囲気や、喫茶店のような雰囲気も味わえることが特徴的である。
これらの特徴を活かしながら、職員一同、入居者の認知症の進行予防のため、コミュニケーションに拘り、入居者、ご家族との信頼関係の構築に尽力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL 1/index.php?action_kouhvou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700217-00

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市とん田東町453-3		
訪問調査日	平成28年2月23日		

グループホーム元気の里は、平成12年店舗を改造、増築して町内最初のグループホームとして開設しています。開設の社会福祉法人には、同じ町内にもう一ヶ所のグループホームの他、近隣市町村にも多くの高齢者介護施設を開設して介護事業に取り組んでいます。法人は理念として「利用者満足」「尊厳の保持」「個別支援の充実」の三つを定め利用者の思いを尊重した介護を目指しています。利用者は、明るい、和やかな雰囲気の中で生活されており、のびのびと自分らしく過ごしている様子が伺えます。管理者は、職員が気持ち良く業務をして貰えるよう職場の雰囲気作りに取り組み、会議で意見を求める他、日常でも出された提案等は検討し実現出来るよう取り組んでいます。職員から提案のあった、利用者の誕生日に職員と二人で、住んでいた場所や行きたい場所へ出かけ食事をとりながら楽しむ取り組みは利用者、家族に好評を得ています。今年度から法人理念の他、事業所の社訓を決め「一人はみんなのために みんなは一人のために」としてチームワークと個人の役割を大切に事業所作りに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を完璧に理解しているとは言い難いが、地域との繋がりを重要視しながら日々職務にあたっている。	理念は玄関、事務所に掲示し、パンフレットに掲載しています。また、年間事業計画を決め、その中で理念に基づいて社訓を定め、現在は「一人はみんなのために みんなは一人のために」とし、管理者、職員が全員で介護に取り組む姿勢を表明しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜や衣類、清拭の差し入れが頻繁にある他、週に一度、地域の方がボランティアで訪問してくれている。	町内会に加入し回覧板を活用させて頂き事業所便りを回覧して理解を得て頂く取り組みを行っています。事業所が焼き肉を行う時には地域の方にも呼び掛けて交流できるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度まで町内の清掃活動に参加していたが、今年度は職員の人員不足もあり、どうしても折り合いがつかず、不参加となってしまった。今後はこのようなことがないように、工夫していく必要がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、入居者状況の報告を行い、必ず意見をいただいている。こちらでは知り得ない情報も多々得られることがあり、参考にさせてもらっている。	運営推進会議は利用者家族、町内会役員、民生委員、町担当者、有識者の出席を得て利用状況、行事等の活動報告を行い質問や意見をj得てサービス提供に活かしています。また管理者により、認知症についての話がjあり理解に繋がっています。	運営推進会議に多くの利用者家族の出席できる工夫と、欠席された家族や職員との情報共有を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月待機者状況の報告、毎月の介護相談員の訪問時のカンファレンス、運営推進会議での議論等をさせていただいている。	町担当者には運営推進会議への出席を頂いている他、管理者が現況報告や事故報告のj為訪問し、助言や指導を得ており、協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で毎月実施している研修で、身体拘束について話し合い、知識や情報の習得に努めている。	管理者、職員は身体拘束廃止に関して、本年度より会議の中で、認知症ケアの一環として研修に取り組み弊害や指定基準の禁止対象となる具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で毎月実施している研修で、虐待について話し合い、知識や情報の習得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者が後見人制度を活用しているが、特設自立支援事業や、成年後見制度に関して学ぶ機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安に感じていることを確認しながら、契約書や重要事項説明書を読み、最終的にご理解・納得をしていただいてから契約の締結している。また、改定等があった場合にも書面での説明と共に、承諾をいただき保管している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所自体には特別窓口を設けてはいないが、法人事務局には苦情受付の窓口を設置し、連絡先も契約書に記している。	利用者や家族の意見、要望は日常の会話や面会時に把握し、管理者、職員で検討しながら運営に反映させています。年に3回グループホームの行事や日常の様子を便りにしてお知らせしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは日々の雑談や職員会議、年2回の個人面談の際に話し合いをしている。経営者とは年度末に面談を行っている。適格に検討を行い、可能な内容であれば、意見を反映させている。	職員の意見の把握は毎月の職員会議や日々の業務の中で把握し、毎月の管理者会議で検討され運営に反映させています。個人面談は年3回管理者、法人役員と行い要望、意見を把握しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で研修や会議を開いた、又は外部研修に参加した際には手当が支払われる仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回、法人内研修を実施している。その他事業所内では、管理者を中心とした事業所内研修を毎月実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に他の法人と交流する機会は設けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には特段の事情が無い限りは必ず面談を実施している。その際には、必要事項を聴取するために作成した、当法人の面談シートを活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時には様々な事項を確認している。そして、適切な説明をもって不安を払拭し、ご家族との信頼関係を構築できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時の段階で、ご家族と入念に話し合い、ご家族とご本人の意向を確認している。その旨を入居前に職員達へ周知し、支援・対応できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に、家族のような関係を構築しなければならないという意識を持って、接するようになっている。そのため、とりわけコミュニケーションには力を注ぐよう指示している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を悪化させず、安心・安楽な生活を継続していくためには、ご家族の協力も必要不可欠であるということを理解し、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在特に馴染みの場所や人に関しての訴え等は見られていないが、要望があれば都度支援していく。	利用者の馴染みの関係の把握は会話の中で行っています。特に誕生日には嘗て訪問したところや希望の場所へ訪問し思い出を大切にできるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中々効果を感じることはできていないが、日々のレクリエーションや外出等を利用し、利用者同士が交わる機会を設け支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで契約が終了した方から特段相談を持ちかけられ、フォローをしたという実績は無い。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談、入居後の日々の雑談、ご家族からの情報等から、ご本人の希望や意向を汲み取り把握できるよう努めている。	利用者の思いや暮らし方の希望は入居時当初の聞き取りなどからの生活歴で把握するほか利用者や家族との会話の中で把握し意向に沿った暮らし方が出来るよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、生活歴、趣味・嗜好、性格、既往歴、他施設での経過等々を把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的なADL状況や、精神状態等々に関して、日々の雑談、毎月の会議の中で話し合い、把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議と合同にモニタリングを行い、その結果をまとめ、ご家族に確認いただいている。	基本的に介護計画の見直しは6ヶ月毎に、毎月のケース検討、担当者のモニタリング、サービス担当者会議を得て家族の意見を伺いながら作成し現状に即した介護計画を作成しています。	ケース記録にサービス提供の様子や記載の充実と職員が介護計画を共有出来る体制構築を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行う際には日々のケース記録を振り返るため活用している。その結果をサービス担当者会議の場で担当者とは職員が情報を共有することができている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なニーズに対応するため、都度検討し、必要時には、既存のサービス内容の変更も柔軟に行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握することはできていないが、施設の敷地内にある畑の手入れや、冬季には除雪等を手伝っていただいている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人には協力医療機関があるため利用を提案させていただくこともあるが、特に固執せず利用するか否かはご家族やご本人の判断に任せている。	医療機関への受診は多くの利用者が提携協力医の往診を受けています。その他かかりつけ医への受診は家族対応で行っています。その際日常の様子をお話し、受診後は家族から報告を受けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人には看護職員や訪問看護職員等の医療従事者は勤務していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の協力医療機関との連携は行っている。他の医療機関との連携は特段行っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月の利用料支払いの際にはご家族には入居者様の変化等の経過を報告し、今後の展望について予めご家族と話し合っている。	看取りに関する事業者の方針については、医療関係者の協力体制が整わなければ取り組みは難しく、現在は取り組むことが難しい旨利用契約時に重要事項説明書で説明し利用者家族の理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年AED・心肺蘇生法の講習を、消防署にて消防職員から受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の民生委員参加で、年2回の避難訓練を実施している。	火災の避難訓練は年2回日中想定で消防署の指導を得て実施しています。緊急連絡網には最初に近隣の地域住民に連絡が行くようになっており協力体制が出来ています。	訓練は日中のみであり夜間想定訓練やその他の災害対策の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性や性格を把握し尊重した声掛けを行うよう心掛けている。	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いで対応し大きな声や羞恥心を損なわない介護に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折入居者側からも要望や悩みの打ち明け等があるため、否定をせず傾聴し、自己決定できるよう働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が強い場合は、状況を見ながらではあるが、気晴らしのため、温泉やドライブの外出をすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に入居者からの訴えは聞かれないが、起床後の更衣整容介助、個人の誕生日会の時には本人のお気に入りの服を着ていただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭き、お茶くみ、調理補助等を状況を見ながら実施している。	献立はその日の担当職員により利用者の好みを考慮しながらたて、一緒に調理を行っています。誕生日には職員と二人で外出し食事を取りながら楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を確実に把握するために、表を作成し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員ではないが、支援が必要な入居者には毎食後必ず重層水を使用し舌磨き、口腔内清掃、うがいの介助を提供している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在夜間帯のみ安眠を優先しおむつを使用している方は一人であり、他の方は昼夜問わずトイレで排泄している。	利用者一人ひとりの排泄記録を取り、極力トイレで排泄できるよう支援しています。利用者が自分からトイレへ行きたいと言う態度を示した時に誘導するよう状況を見ながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事業所内で行っている研修にて、排便や便秘のメカニズムを勉強し、下剤の服用間隔、飲食物の工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望をする入居者も特に居ないことから、以前から曜日や時間帯を決定し対応している。	入浴は週2回を基本とし、利用者の状況やその日の状態を考慮して支援しています。浴室には立位がとれるよう手摺を取り付けることができ工夫しながら介助しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の能力に合わせ、休息を取る必要性のある方には、状況を見ながらではあるが、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を記した用紙を作成し、張り出している。他、日々の雑談や、会議内での議論の中で、副作用や経過、留意点について必ず話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションの提供、買い物支援、畑仕事や工作、書道等、個々の趣味に合わせた活動を積極的に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社用車が軽自動車1台しかなく、入居者や職員が乗車できるような車は、他事業所にあらかじめ予約し借りてくるという作業が必要なため、とっさの行動が難しく中々遠出することが出来ていない状況。	気候が良くなると周辺を散歩し、散策路にベンチを設置して楽しんでいます。また、利用者の誕生日には職員と二人で行きたい場所に出かけ昔を懐かしんだり、食べたい物を食べて気分転換を図っています。季節の移ろいを大切にして散歩、ドライブ等外出に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理させていただき、必要時や訴え時には、職員が買い物や、その後の出納帳の記入等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしたいという訴えは今までなかったが、電話に関しては訴えがあれば都度対応させていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に関しては、入居者個々の能力や特徴を考慮した選定を行っている。夜間帯での洗濯機の使用は極力避けている。	以前店舗だった名残のカウンターがある食堂兼リビングは広く、利用者が寛げるようにソファが置かれています。利用者の作品や写真が飾られ楽しい雰囲気と成っており、利用者と職員が賑やかで和やかに過ごしている様子が伺えます。温度、湿度の調節も配慮され居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適格に入居者同士の間人間関係を熟知し、食事席の並びの選定、ソファの位置等には配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、使い慣れた筆筒や寝具類を御持参いただき使用していただいている。	居室には、ベッドと吊り棚が設置されています。利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇等を配置し、自分らしく暮らしやすい部屋作りと成っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室での立位補助や、簡易ストーブの設置、個人の能力に合わせた食事席や居室の選定を行い、安全と自立支援を考慮した対応をしている。		